

令和8年版 くにまもりを考える

2月11日の建国記念の日。第18回くにまもり演説大会が東京国際フォーラムで開催され、会場には約1200名、オンラインでは約500名の方にご観覧、ご視聴いただきました。「建国をしのび、国を愛する心を養う」という建国記念の日にふさわしい一日となったと実感しています。くにまもり演説大会を始めてから18年。令和8年、くにまもりについて改めて考えてみました。



国

の概念について社員より質問を受けました。そもそも数千年前は国という概念はなく、それぞれの共同体で狩りや木の実を採集して生活していました。時が経ち、国境という概念が生まれ、現在は約200カ国の国と地域があります。日本は、世界の中でも治安が良いとされ、暮らしやすい国の一つです。歴史的には国内でも様々な内乱が起こり、他国からの侵略もありましたが、2686年続く皇室のおかげで、国民が一致団結して安定していると思います。国という概念ができた以上は、世界各国がそれぞれの与えられている領地でお互いに尊重し合い、戦争もせず奪い合わなければ平和に過ごせます。しかし、長い歴史を見ても、今もなお、宗教やエネルギーの問題をはじめ、昔は自分の土地だったからという理由で、武器を手に取り戦争が起きているのが現実です。

日本国民の生命と財産を守り、平和な日本であり続けるためには、自然災害から身を守る堤防や高台作り、防災グッズの備えと同じように、近隣諸国に対して備えることが大切です。中国は建国以来、この76年の間にチベット、ウイグル、モンゴルなどを侵略しています。日本が少しでも防衛力を備えると、軍国主義だと批判してきます。これまで日本からは中国にODAで3兆円以上も供与していたにもかかわらず、ミサイルを日本に向けています。この現実から日本人は目を背けてはいけません。

ロシアはウクライナに侵攻しましたが、ロシアの戦闘機は日本の領空を何度も侵犯し、北朝鮮はミサイルを日本海に向けて何発も打ち続けています。台湾、沖縄、尖閣諸島で何が起きているのかを見定めなければいけません。そのため、日米豪印によるクワッドや日米同盟など、他国と連携する外交努力が必要になってくるのです。国民の生命と財産を守るといえるのは、このような現実的なことだと理解していく必要があります。

きなものは守りますが、嫌いなものは守りません。私は、この日本という国の歴史、文化、伝統などを学んだことで、日本のことが好きになりました。大切に思える人も増えました。だからこそ、日本が好きだという人を増やすために、教育や人材育成に取り組んでいるのです。私のくにまもりは、日本が好きなる人を一人でも多く増やすことです。昭和天皇が開戦と終戦の詔書に「万邦共榮の榮しみを共にする」と書いているように、日本が世界の手本となって世界平和を目指す一助になっていきます。

この度の第18回くにまもり演説大会でも一人ひとりの想いが詰まった、様々な視点のくにまもりがありました。自衛隊や警察だけが国を守るわけではありません。国民一人ひとりが、それぞれのポジションでできることから守っていく、次世代につなげていく。この考え方をこれからもっと浸透させていきたいと思っています。そのために、若い世代が公のことを考えるきっかけとなる「くにまもり演説大会」が続いていくよう努力していきます。

そ

して、国を守るための最大の力は国民の意識、つまり国民が日本を好きかどうかが大切だと思います。人は好

(株)キャリアコンサルティング 代表取締役社長 室館 勲
MURODATE Isao

2003年に株式会社キャリアコンサルティングを設立。全国で若者の育成に取り組む。千葉県教頭会第1ブロック研究大会、むつろータリークラブ創立65周年式典など講演実績多数。全国社内木鶏経営者会 副会長。ミス・ワールド・ジャパンの講師・審査員。著書に「夢を見て 夢を叶えて 夢になる」(致知出版社)、「まずは上司を勝たせなさい」(講談社)、「『応援される人』にならなさい」(ワック)がある。